

社会のニーズに応え、“革新”に挑み続けた 富士フィルムグループ80年の歩み

- 富士フィルムグループ
- 富士フィルム
- 富士ゼロックス

技術・製品



映画用フィルム



レントゲンフィルム



富士ゼロックス914



F-II 400



FCR



A color



写ルンです



FinePix 700



X100



LTO Ultrium



ASTALIFT

- 1936 映画用・製版用フィルム
- 1936 レントゲンフィルム
- 1948 カラーリバーサルフィルム・カメラ

- 1962 富士ゼロックス設立。業界初の普通紙複写機「富士ゼロックス914」
- 1965 国産初のコンピュータ用磁気テープ、PS版(製版用)
- 1976 世界最高感度ISO400を実現した「F-II 400」
- 1978 小型・高速・高性能の複写機「富士ゼロックス3500」

- 1983 世界初のデジタルX線画像診断システム「FCR」
- 1986 世界初のレンズ付きフィルム「写ルンです」
- 1988 世界初のフルデジタルステルカメラ開発「DS-1P」
- 1992 本格的なデジタルフルカラー複写機「A color」
- 1996 世界初、液晶ディスプレイの視野角を拡大する「WVフィルム」
- 1998 世界初の民生用メガピクセルデジタルカメラ「FinePix 700」
- 2001 初の本格的な高速・高画質・省スペース機「Docu Centre Color 400CP」

1934~
映画フィルムの国産化を目指して創業。以来、次々と映画・写真・レントゲンフィルムの国産化に成功

1950~
医療分野(X線診断)印刷分野、電子写真、磁気材料など、写真フィルムの技術に応用した製品開発により事業を多角化

1980~
写真・医療・印刷事業においていち早くデジタル化に取り組み、各分野で相次いで製品化を実現

2004~
「映像と情報」の分野を超えて、幅広く社会に寄与するため、多角的な新事業に取り組む

2014

80th Anniversary

次の未来へ向けて、革新的な「技術」「製品」「サービス」に挑戦しつづける



社外のビジネスパートナーと新たな価値を「共創」する「Open Innovation Hub」



撮ったその場でチェックフィルムに出力できるスマートフォン用プリンター「instax SHARE SP-1」



次世代 携帯型超音波画像診断装置「FUJIFILM FC1」



新しい写真の楽しみ方が体験できる富士フィルム直営写真店「WONDER PHOTO SHOP」

CSR

- 1977 学術交流を目的とする富士ゼロックス株式会社小林節太郎記念基金設立
- 1983 公益信託富士フィルム・グリーンファンドを設立



富士フィルム・グリーンファンド

- 1989 拡大教科書の製作支援開始
- 1991 国立国会図書館所蔵の明治期図書16万冊のマイクロ化事業達成
- 1996 産廃ゼロを目指し、回収したパーツを再生し生産ラインに踏襲
- 1998 世界初「写ルンです」の循環生産自動化工場が稼働
- 1998 労働組合、中国での植林ボランティア活動開始



中国での植林ボランティア活動

- 1999 富士フィルムグループの「企業行動憲章」「社員行動規範」を制定
- 2003 ピンクリボン運動の支援開始
- 2004/2008 タイ・中国にリサイクル拠点を設立し、国際資源循環システム稼働
- 2005 「“PHOTO IS” 10,000人の写真展」をスタート
- 2007 企業行動憲章・行動規範を全面改訂



タイのリサイクル拠点

- 2010 2020年に向けたライフサイクルでのCO2削減目標(2005年度比30%削減)策定
- 2011 「写真救済プロジェクト」開始
- 2012 韓国・オーストラリア・ニュージーランドのリサイクルシステムが正式稼働



写真救済プロジェクト

- 2014 中期CSR計画「Sustainable Value Plan 2016」を策定

[会社の出来事] ●1934 富士写真フィルム株式会社設立

●1962 富士ゼロックス株式会社設立

●2006 富士フィルムホールディングス設立 持株会社制へ移行

●2008 富士化学、大正製薬との戦略的資本・業務提携